

ほけんだより 12月

2022.12.1
あおぞら保育園

気温が下がり乾燥した気候が続く、鼻水や咳などの症状が出たり、肌が荒れてかゆみが出ているお子さんもみられます。朝夕の保湿（特に朝の洗顔直後、入浴後のうるおいがある時に保湿剤を塗ると、角質層に水分を閉じ込められるので効果的です）をお願いいたします。11月に実施した「手洗い指導」で手洗いするタイミングや手順をしっかり覚えられましたので、親子で歌いながらやってみるのも良いですね。体調に気をつけながら、ご家族で楽しい年末をお過ごしください。

おねがいとお知らせ

11月の感染症

溶連菌感染症 1名

12月の保健行事

5日～9日 身体測定
9日(金) 0歳児健診 14:30～

・羽村市でも新型コロナウイルス感染症が増加しています。発熱や咳等、風邪の症状が見られる時は、受診をお願いします。その際に保育園に通っていることを伝えていただき、登園(集団の中での生活)が可能かどうか、主治医の診断のご確認をお願いいたします。

・胃腸炎の症状は、嘔吐から始まり下痢に移行します。発熱することもあるので、脱水症状の予防が大切です。嘔吐後は、1～2時間程度時間を空けて、少しずつ、経口補水液や乳幼児用イオン飲料で水分摂取します。母乳・ミルクでも同様に、少量ずつ飲ませます。まずスプーンで一口。吐き気がなければ、10分おき程度にひと口ずつ。徐々に2口…と増やします。食事は、無理に食べさせる必要はありません。子どもが欲しがるからと言って、消化の良い食べ物やジャンクフードなどは回復を遅らせますので控えましょう。食事を開始する場合は、消化の良いもので様子を見てください。

おしりもかぶれやすくなりますので、こすらずにお湯洗いし、軽く押さえ拭きをしてからたっぷり保湿剤を塗って荒れ予防をしましょう。

～インフルエンザについて～

インフルエンザの疑いがある場合は、各医療機関によって検査できるタイミングが違います(38℃以上になってから12時間以上経たないと検査できないなど。)一般的に発熱後、48時間以上経過すると薬効が期待できなくなってしまいます。

※インフルエンザと診断された場合※

登園基準は「インフルエンザ発症後、5日を経過し、かつ、解熱した後3日を経過するまで」です。基準を満たしたら保護者にご記入いただく「登園届」を提出していただき登園可となります。

最低基準	発症した後5日を経過(発症当日0日目)	発症後1日目	発症後2日目	発症後3日目	発症後4日目	発症後5日目	発症後6日目	発症後7日目	発症後8日目	発症後9日目
例1	発熱後1日目に解熱した場合	発熱	解熱	解熱後1日目	解熱後2日目	解熱後3日目	発熱後5日目	☺		
例2	発熱後2日目に解熱した場合	発熱	発熱	解熱	解熱後1日目	解熱後2日目	解熱後3日目	☺		
例3	発熱後3日目に解熱した場合	発熱	発熱	発熱	解熱	解熱後1日目	解熱後2日目	解熱後3日目	☺	
例4	発熱後4日目に解熱した場合	発熱	発熱	発熱	発熱	解熱	解熱後1日目	解熱後2日目	解熱後3日目	☺
例5	発熱後5日目に解熱した場合	発熱	発熱	発熱	発熱	発熱	解熱	解熱後1日目	解熱後2日目	解熱後3日目

手洗い指導

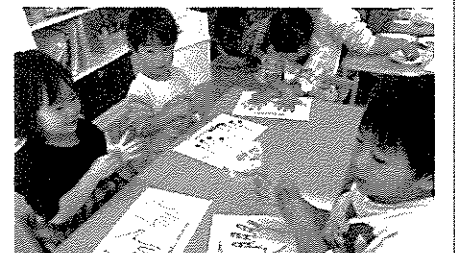
★ことり組



石けんの泡が手のしわや爪の間に入り込んでいるところを観察しました。



洗い残した所にシールを貼りました。



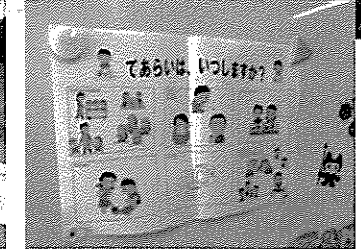
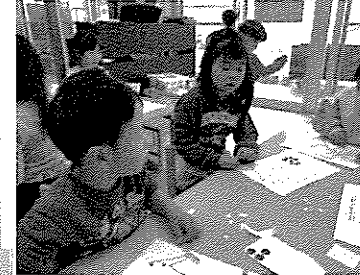
フラックライトを照らすと洗い残しが見えます。

★はな組

♪手洗いの歌♪
しゅりげん、いもむし、おやゆび、おすべり、こちょこちょあらって、くりくりしましょう～

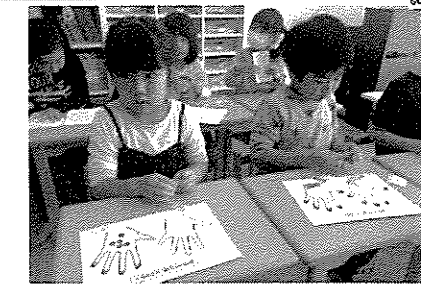


★つき組



「あおぞら保育園の子は手洗いが上手ですね。と小学校の先生に褒めてもらえたら嬉しいね。」と子どもたちに伝えると大きくうなずいていました。小学校への期待が高まる時期なので集中して話を聞くことができました。手洗いというのは、これから先も自分の体を守るためにとても大切な事の一つです。最後の手洗い指導になりますので、気合いを入れてみんなと確認しながら行いました。

ライトを当てた瞬間に、手が光って見えるので子どもたちは「えっ、ちゃんと洗ったのに・・・」とロク々に言っていました。その後、念入りに手洗いをし、再チャレンジしました。



ことり組は全てが初参加でしたが興味津々でよく話を聞き一生懸命に真似をしながら取り組む姿がかわいらしかったです。はな・つき組は「手洗いが上手になった」「鼻がかめるようになった」など嬉しい報告も聞かれました。幼いうちから、自分の健康に興味を持つことは大切です。実際に体験しながら、できた・できなかった・何でだろう?・楽しかった・もっとやりたい・・・など色々な発見や感情を引き出せるように子どもたちと一緒に楽しめる工夫を今後していきたいと思えます。